

衆議院議員

# 大串まさき

## 国政報告



特集

## 新型コロナウイルス 対策と第二次補正予算

ゲンロック VOL.20

新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、ご遺族の皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。さらに、現在も医療現場で、この感染症と闘っておられる皆さまには、心から感謝を申し上げます。

これまでの政策で一定の成果が見られ、感染症による死者数は、何とか低く抑えることができています。第二波も予想されますので「新しい生活様式」の中で、引き続きのご協力をお願い致します。同時に、傷んだ経済の立て直しをはかるべく、第二次補正予算が組まれました。これらの施策を十分に活用しながら、今後もしっかりとした対策を講じて参ります。

一方で、今回のコロナ禍で日本社会の弱さや課題も見えてきました。行政の現場での急激なニーズの拡大に 대응できる能力の確保（検査体制の強化や給付手続きの迅速化など）や、製造業のサプライチェーンの見直しなど、皆さんの声を元に新たな対応が必要になっています。

これら、一つひとつを検証しながら、これまでの考え方にとらわれず、大胆な発想と行動力で新たな政策で対応して参ります。次の時代に向かって、責任を持って頑張ります。

## 大串正樹

### 大串まさき プロフィール

- ▶昭和41年、兵庫県生まれ。報徳学園高校卒（74回）、東北大学卒、同大学院修了（工学修士）。IHI（株）、松下政経塾を経て北陸先端科学技術大学院大学修了（知識科学博士）。西武文理大学准教授等を歴任。
- ▶平成23年3月、公募により自由民主党兵庫県第六選挙区（伊丹市・宝塚市・川西市）支部長に就任。
- ▶平成24年12月、第46回衆議院総選挙にて初当選。以降、第47回（平成26年）、第48回（平成29年）総選挙にて3期連続当選。
- ▶国会対策副委員長などを経て、平成29年4月第3次安倍第2次改造内閣にて経済産業大臣政務官に就任。産業・通商政策・資源エネルギー政策・中小企業政策などに注力。
- ▶自民党副幹事長などを経て、令和元年11月より、自民党税制調査会幹事、財務金融部会副部会長。厚生労働委員会、文部科学委員会などに所属。

# 新型コロナウイルス感染対策と「新しい生活様式」

さまざまなご意見もありますが、これまで取り組んで参りました政府の対策と、皆さまのご協力によって、何とか医療崩壊を防ぎつつ死者数を抑えることができています。まだまだ安心はできませんが「**新しい生活様式**」へのご協力を通じて、爆発的な感染拡大を防ぎつつ経済活動の再開を進めて参ります。

コロナ対策については、政府の考え方は終始一貫しています。何よりも感染の拡大を防ぎ国民の**生命を守る**こと。これが最優先であることは間違いありません。しかし、そのためには医療提供体制がしっかりと維持されていなければなりません。医療崩壊を防ぎ**医療を守る**ことが、生命を守る上でも重要な課題になるのです。世界に冠たる我が国の医療保険制度や医療提供体制に最適化された、効果的な対策を、しっかりと行うことが大切なのです。



また経済活動を維持し**雇用を守る**ことも同様に重要です。収入や生活の基盤を維持することは生命を守ることと同義です。まずは感染症を終息させることと、その間の生活保障という意味での対応を優先して取り組んでいます。

さらに出口に向かって「新しい生活様式」の実践をお願いしつつ、より強力な経済対策を実施しなければなりません。世界的に疲弊した経済を立て直すことは容易ではありませんが、これもしっかりと対応を進めて参ります。

今回のコロナ禍は、自然災害やリーマンショックなどと異なり、三密を防ぐための営業自粛も含めて飲食や観光・文化活動など、特定の分野に多大な影響を与えています。政府としても必要な所には躊躇無く、しっかりと支援を行うとともに、メリハリの効いた効果的な経済対策を数次にわたって行う必要があると考えています。もちろん財政規律※も常に意識しておかなければなりません。未来にわたって国家運営を預かる与党として、**財政を守る**という重大な責任を負っています。

※「どんどん国債を発行すれば良い」という乱暴な意見もあります。MMT（現代貨幣理論）に基づく議論です。しかし、会計論に終始するMMTで財政を論じることは危険です。巨額の財政赤字を抱えながらも、政府は成長目標を掲げイールドカーブコントロールという金融政策で金利のコントロールをおこなっているからこそ、通貨としての円が信認を得ているのです。一定の規律が必要なことは自明なのです。さらに「真水（財政支出）をもっと」という意見も、財政の実務を理解すれば容易でないことはすぐにわかります。むしろ少ない真水と大きな事業規模で経済を立て直す政策こそが評価されるべきなのです。

- 定額給付金について  
前号で紹介した生活支援臨時給付金（仮称）は一人一律10万円の定額給付金へと変更になりました。まだ受給されていない方は各自治体にご確認下さい。
- 詳しい制度内容については、自民党の特設サイト（<https://www.jimin.jp/covid19/>）をご覧ください。



## 第二次補正予算が成立

新型コロナウイルス感染症対策を強力に推進するための今年度第二次補正予算が成立しました。一般会計の追加歳出は補正予算としての過去最高の31兆9,114億円で、財政投融资や民間融資なども含めた事業規模は117兆1,000億円にのびます。第一次補正予算と併せた事業規模がGDPの4割にのぼる世界最大級の対策となります。これらの対策を通じて雇用を守りつつ、次なる流行のおそれに万全の備えを固めて参ります。

同予算には以下のような、これまでの対策の拡充や新たな施策等がきめ細かく盛り込まれています。

### ● 雇用調整助成金の拡充

上限が15,000円まで引き上げられ対象期間も延長。解雇等を行わない中小企業の助成率も10割に引き上げます。

### ● 家賃支援給付金の創設

売上高が急減した事業者の方に法人で月額最大100万円、個人事業主は最大50万円が6ヶ月分支給されます。

### ● 休業支援金の創設

休業期間中の賃金の支払いを受けられなかった場合、給与額の8割（上限33万円）が支給されます。

### ● 緊急包括支援交付金の拡充

医療、介護、福祉従事者への慰労金の支給を始め、支援策が追加されました。

### ● その他

農林水産業の経営継続補助金や文化芸術スポーツ活動の支援、資金繰り対応などの支援策も強化しています。

## 新たな政策で新時代

国会は閉会しましたが休みはありません。閉会後から夏に掛けて、来年度予算の準備など新たな政策を仕込む大切な時期になります。

今期は、自民党の「データヘルス推進特命委員会」にて**医療分野の個人情報の保護と利活用に関する法制化**の議論の取りまとめを行いました。新型コロナウイルス感染症対策でも明らかになりましたが、医療分野において既往症や服薬履歴などの個人情報は、国民の生命を守る救命救急や治療、健康管理等に際して、より積極的に共有・活用されるべきで、その情報の保護と利活用の推進に関する制度づくりは喫緊の課題となっています。

日本では遅れているこのような仕組みを早期に実現するための、さまざまな議論を進めてまいりました。引き続き、社会保障分野でも新時代を拓くべく頑張って参ります。



データヘルス推進特命委員会にて有識者のヒヤリングを行いました（中央は塩崎委員長）。